

## 卷頭言

## 『日本呼吸器学会誌』のさらなる発展のために

日本呼吸器学会和文誌編集委員長 服部 登  
(広島大学大学院医系科学研究科分子内科学)



このたび『日本呼吸器学会誌』の編集委員長に再任されました広島大学の服部です。前回の巻頭言にて掲げました、編集委員長の立場から考える『日本呼吸器学会誌』の担うべき役割は、今回も引き継いでおくべきだと思いますので、以下に再掲します。

「和文誌である『日本呼吸器学会誌』の担うべき役割はいったいどのようなものでしょうか？私は以下の3点に集約されるのではないかと考えています。

- (1) 各種の呼吸器疾患の診療が抱える国内における問題点とその対策法などを啓発する論文、はたまた、国内の呼吸器疾患診療や研究に携わる医師や研究者が抱える課題や問題点などを指摘する論文をタイムリーに掲載することによって、これらの情報を日本呼吸器学会員へ日本語で発信するツールとなること。
- (2) 日本呼吸器学会員にとって、普段の診療ではなかなかお目にかかることのない、しかしながら留意しておかねばならない希少な呼吸器疾患やよくある呼吸器疾患の稀な病態を経験できる学びの場であること。さらに英文抄録を通して世界にもその内容の発信を行うこと。
- (3) 呼吸器疾患診療に携わる若手医師たちが経験症例から新規の知見を見いだすために必要なものの考え方を学んだうえで、それを症例報告として執筆し、投稿、査読、校正を経験して、論文作成の作法を学ぶ場であること。」

前回の私の任期中に本会誌はこれらの役割を十分担ってきたものと信じておりますが、そのなかでいくつかの課題もみえてまいりました。まず、非常に未熟な原稿が何のためらいもなく投稿されてくるケースが散見される点です。多くは初めて論文の投稿を経験した学会員なのだと思いますが、本誌への投稿は論文作成の作法を学ぶ場でもありますので、指導者の皆様にはその意識を持って投稿者へのご指導を賜れることを祈念しております。もう一点は、論文の査読を依頼されてもそれを断られるケースも散見されることです。査読していただいているのは日本呼吸器学会の代議員の先生方ですので、ぜひ自分たちの力で『日本呼吸器学会誌』を育むのだという気持ちを持って、依頼された査読はお引き受けいただきたいと願います。ただ、編集委員長としては論文査読者への何らかのインセンティブ付与ができる流れを作らないといけないかとも考えております。

担うべき役割、そして抱える課題を見据えながら、本会誌がすべての学会員にとって学びの場となれることを目指して、これからも編集委員長として活動してまいります。今後とも皆様からのご協力を賜れることを祈念しつつ、この巻頭言を結びたいと思います。